

最後の女性

帝キネ

現代映論

原作者 岡田三郎
脚色者 水城英一
監督者 松本英義
撮影者 二宮義曉

主要役割

青木摩耶子 香川子
袖絹子 小島洋々
禎吉 若野繁
松浦勉 山田路ふみ
樋口秀夫 牧野繁
百合子 徳若六子
英一 (不良青年) 鈴木勝彦
樋口浩三 藤間太郎
藤間林太郎
愛子 花柳あやめ
松本英一氏の「カフカ」の女に次ぐ
品で「聖火」を改題したものである。

追つて来た。姉夫婦は兩親の没後、幼い頃から引取つて育てて来た摩耶子の、頗る喜んできた。她は一日摩耶子の少女時代の日記を見し、彼女が既に處女でない事を知りなつた。彼女は覺り、自らの婚約を破つて家出した。そして彼女は自分をかうした不幸に陥れた樋口秀夫を尋ねて結婚を迫つたが、彼はカラス工場重役近藤の引立てで同工場の顧問になり、合婚百合子と婚約さへあつた。彼は摩耶子の言葉に笑ひ、立場を説いて勉を結婚を止めさせた。しかし彼女が獨り心に決するところがあつた。數日後、ある海岸に現れた彼女は故意に不良少年の群に投じ、團長森によつて變装して百合子に會ひ秀夫のこゝろ打明けた。百合子は彼女に同情し秀夫とは結婚しないと誓つた。彼女は流石に姉夫婦の心配を思つた。そして幼なじみの秀夫の弟浩三を訪れた。彼はある工場の職工で兄とは反目的の間だつた。彼は摩耶子に打明られ、その頼みを快く引受けて姉夫婦を訪れた。夫婦は驚き憐んだ。摩耶子は快からず思つてゐる不良の森と秀夫は、別つて彼女を人々の物笑ひにしやうとしてゐた。



寫 眞 「最後の女性」帝キネ松本英一作品。藤間林太郎と山路ふみ子。

她は摩耶子と別れて日夜の懐傭を酒にまぎらしてゐたが、一夜彼女に誘ひ出されて行つたダンスホールで摩耶子がある紳士と踊り狂ふのを見て怒り、その翌日自殺して了つた。彼女もそのヒストルなこめかみに當てたが果さず、生きて秀夫に復讐しやうと決意する。その頃カラス工場は貸銀直下げを行つたので摩耶子は浩三と相談し、百合子を誘ひ出して労働者の味方なし、百合子は父に背き秀夫排斥運動をし、勝つた。改悟した秀夫は突如摩耶子を訪れてすべてを謝し結婚を申込んだ。彼女は一命をかけて復讐し今日の日を待つてゐただよ云つた。